

6/22 75

# 高浜1号機来月28日再稼働

## 40年超、2号機は9月15日

関西電力は二十一日、運転開始から四十年を超えた高浜原発（高浜町）の1号機を七月二十八日、2号機を九月十五日に再稼働すると発表した。当初、再稼働は1号機が六月上旬、2

号機が七月中旬の予定だったが、火災防護対策の追加工事が必要となり延期していた。いずれも二〇二一（平成二十三）年の定期検査から運転を停止し、十二年ぶりの運転となる。

新規制基準下での四十年超運転は美浜原発3号機（美浜町）に続き、国内で二、三例目。1号機は営業運転開始から四十八年が経過し、国内で最も古い原発

の運転となる。1、2号機が動けば、廃炉中を除いた関電の全ての原発が稼働し、七基態勢となる。

1号機は追加工事や原子力規制庁の現場確認が終わり、今月二十二日に原子炉に燃料を装荷する作業に着手。八月二日に発送電、同二十八日に営業運転を始める。

2号機は火災防護対策工事を経て、八月七日に燃料の装荷を始める。発送電は九月二十日、営業運転は十月十六日に開始予定。

前回の運転から長期間停止していた点を考慮し、燃料装荷開始から営業運転開始まで点検や安全確認を計八回実施する。火力や水力といった原子力分野以外の技術者による点検も二回含まれている。

高浜1、2号機は一六年来に四十年超運転が可能となる審査に合格し、二一年に県と高浜町から再稼働の同意を得たものの、テロ対策を担う特定重大事故等対処施設が完成しておらず再稼働していなかった。

この日、関電原子力事業本部の水田仁本部長代理が県庁を訪れ、県防災安全部の坂本裕一郎部長に報告した。水田本部長代理は「安全最優先で原子力発電所の運転に取り組み」と述べ、坂本部長は「十二年度の停止で県民の不安もある。これまで以上に念入りに作業してほしい」と応じた。（曾根智典、佐久間博康）